ICF に基づく高齢者の活性化について

児玉　紀央衣　（生涯スポーツ学科　地域スポーツコース）
指導教員　金田　安正

キーワード：ICF,高齢者,援助

1　はじめに

近年少子高齢化が進み,ひとりで生活をする高齢者を近所でもよく見かけるようになった.本研究の対象者 A さんもそのうちのひとりである.

ひとりで生活する高齢者にとってどういった援助が必要であるのかを導き出すため,ICF（国際生活機能分類）を使い研究を行った.

本研究では対象者 A さんという人物の生活を見直すことから始まり,課題を与え,それに対しての援助法を導き出した.そういった中で少しでも A さんを活性化させることを目的とした.

2　研究方法

本研究対象の高齢者 A さんに対し,ICF のチェック表を作成し,A さんの生活に当てはめチェックを行った.

3　結果と考察

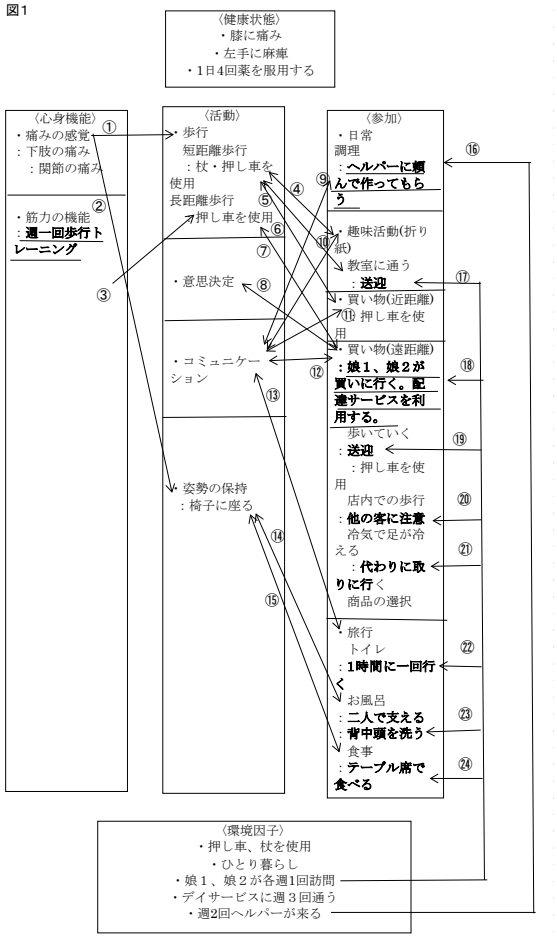
A さんへ日常生活,折り紙,買い物,旅行といった 4 つの課題を与え,ICF に基づき援助を見つけ出した.そこで問題点を明らかにして,対応の仕方を考察した.

例えば,遠距離の買い物では,下肢に痛みを抱えている A さんは長距離の移動が困難である.これは①で示している.そのため送迎をするという援助をする.送迎をするのは娘１が行う.これは⑲で示している.

買い物の際は商品を選ぶ時に自分で何を買うにか決めるため,意思決定⑧でつながっている.また,A さんは歩行の際押し車を使用するため,⑦商品を探すために店内を移動するとき,援助者は⑳他の客に注意をする必要がある.

冷気で足が冷えると足が動かなくなるため,援助者は店内での移動は冷気を避ける,㉑かわりに商品を取りに行くという援助が必要である.

図1



4　まとめ

現在デイサービスに行く以外はほとんど外出することのない A さんが買い物に行きたいと言ったことで,A さんは少し前向きになったと考える.A さんの意欲がこれからもっと出るようさらに ICF のチェックを細分化,検討し,周囲の人が A さんを支え援助しなければならない.